

地域学歴史文化センター 古い建物で新しい学問



シュライバー先生を囲む学生たち（資料写真）

佐大フスケツチ

本庄キャンパスの正門から並木道をまっすぐ進むと白い小さな洋館がある。佐賀市精町にあった旧制佐高の外国人教師公舎を二〇〇六年八月に復元、第二次大戦前後に教鞭をとっていたシュライバー先生にちなんで菊桶シュライバー館という。佐大の新しいシンボルとして、また、新しい学問「地域学」を研究する拠点として地域学歴史文化センターとして利用されている。中に入ると一階には当時の居間や応接室、台所、使用人部屋だったのか和室もある。二階には二つの寝室。外国人に狭かったのではと思えるほど、かわい建物である。

完全な復元ではないが、階段の手すりなどには当時の物が使われている。さて、「地域学」とは、佐賀という地域の歴史文化が持つ固有性と普遍性を探求し、広い地域としての日本、東アジアの歴史文化にアプローチし今後を展望していく新たな学問体系であると、案内してくれた伊藤専任講師は言う。

新しくよみがえった部屋は展示室や郷土資料室、閲覧室などになっていて、学外の方も利用できる。現在、展示室では伊万里の山本家文書の江戸時代の資料を紹介している。平日の午前十時から午後五時まで、無料で利用できる。また、二十五日まで県立佐賀城本丸歴史館で、本丸歴史館と近世文学会との共催で「近世の活字文化と佐賀藩」展を開催している。利用の問い合わせは地域学歴史文化センター、電話0952(28)8378へ。
（佐賀大学理事・北島悦子）
【次回は12月11日に掲載します】